

〔巻頭言〕

「私が最近思うこと」

㈱サンエスブリーディング 下山 安

前回の巻頭言（2023年8月）で「とにかく暑い」と書きましたが、今年はさらに暑い!!

梅雨も感じる事ができませんでした。連日国内歴代最高気温を更新しています。関東各地で気温42℃など子供のころに外で走り回って遊んでいた頃からすると考えられません。

夏の甲子園も開始しましたが・・・過酷すぎるのではないかと。水不足も深刻で農作物にも影響が出てきそうです。

一方、豚肉相場は900円台をたたき出し、私がこの業界にお世話になって最高の相場となりました。昨年の猛暑による繁殖成績低下と疾病、飼料価格の高騰や円安も影響していると考えられますが、今年の夏も昨年以上に酷暑状態であり・・・来年もまた同じような現象がおこるのだろうか心配になります。

気候変動は活発化しています。いろいろと予期せぬことが起こる時代に突入したようで、様々な対応をしていかなくてはなりません。

さて、これだけ暑いとやはり夏場の繁殖成績に影響が出ている農場も多いかと思いますが、それでも成績を落とさない農場というのがあるので。特別なことはしていないといいながら、年間を通じて受胎率（分娩率）が安定しているのです。

このように分娩率を高位で安定させている農場では普段から母豚栄養管理、環境調整などが良く実施されているからではないでしょうか。また、そのような農場では夏場対策を実施することで効果が出やすいのかもしれませんが。分娩率が乱高下しているような農場は、定時定量の生産性を大きく低下させているのではないのでしょうか。私が農場の成績を分析する場合は、最初に月毎の交配数に対する分娩率、産子数を見ることにしています。基本中の基本ですがその農場のだいたいの状況が予測でき、その先の分析がしやすく解決策が生まれます。

飼料費、設備費、人件費、水光費が高騰している中で分娩率を高位安定させることは大切なことだと考えています。イレギュラーなことが起こりやすいこのご時世、起きてからの対応では遅いのです。豚を間近で見ている農場の現場からの「知」の発想もなければなかなか改善していくことは難しいでしょう。これが「私が最近思うこと」です。

明日から立秋。カネタタキが鳴き始めました。

2025年8月

「大暑 大雨時行（たいうときどきふる）」